



社会福祉法人 パーソナル・アシスタンス とも
ご寄付のお願い

社会福祉法人となっても、その財源は今までと何も変わらない現実です。皆様からの寄付は現在行っている社会福祉事業に役立てさせていただきます。皆様のご協力をお願いいたします。なお、「とも」への寄付は、以下の税制上の優遇措置があります。

- ◆個人の方は、所得税に係る「寄付金控除の対象」になっています。
- ◆法人の場合は、一般の寄付金とは別枠で損金の額に算入することができます。
- ◆相続や遺贈によって受けた財産を寄付した場合は、その分は相続税の対象外となります。

寄付金 京葉銀行 新浦安支店 普通口座 5429331
振込先 口座名義: 社会福祉法人 パーソナル・アシスタンス とも
理事長 西田良枝

ご利用案内

【個別のケアサービス】

- ◆パーソナルケアセンター
障害福祉サービス(居宅介護・重度訪問介護・行動援護)
介護保険サービス(訪問介護・介護予防訪問介護)
移動支援事業・浦安市通院ヘルプサービス事業
パーソナルケアサービス(制度外の支援)
介護保険外生活支援サービス
- ◆パーソナル・アシスタンスとも居宅介護支援事業所【休止中】

【緊急時の宿泊も可能な支援】

- ◆浦安市障がい者等一時ケアセンター事業(指定管理者)

【子どもの発達支援】

- ◆障害児通所支援事業所ふあり(児童発達支援/放課後等デイサービス)
- ◆障害児通所支援事業所 マリーナ(児童発達支援/放課後等デイサービス)

【日中一時支援事業】

- ◆マリーナテラス ◆日中一時支援事業所とも

【様々な療育事業】

- ◆イルカスイミングクラブ ◆ダンスクラブ ◆療育・手づくりリハビリ教室
- ◆造形教室 ◆音楽療法 ◆ムーブメント療育 ◆卓球教室

【日中活動・就労・機能訓練・余暇等の支援】

- ◆浦安市斎場内売店運営
- ◆就労継続支援B型事業所とも
キッチンカフェほっぷ運営
カフェテラスゆう(浦安市老人福祉センター内カフェ)運営
- ◆浦安市身体障がい者福祉センター事業(指定管理者)

【訪問看護事業】

- ◆訪問看護ステーションとも

【生活支援のための相談】

- ◆「浦安市基幹相談支援センター」(浦安市より受託)・指定一般相談支援事業(千葉県指定)・指定特定相談支援事業(浦安市指定)・指定障害児相談支援事業(浦安市指定)
- ◆「相談支援事業所ふあり」指定特定相談支援事業(浦安市指定)・指定障害児相談支援事業(浦安市指定)

【福祉機器等の貸与・販売】

- ◆福祉用具のレンタルや販売、日生具、補装具など【休止中】

●連絡先のご案内	事業名	電話番号	メールアドレス
●パーソナル・アシスタンス とも		047-304-8808	tomo@patomo.jp
●パーソナル・アシスタンス とも(予約専用)		047-304-8811	
●障害児通所支援事業所ふあり		047-304-8860	tomo-hual1@patomo.jp
●障害児通所支援事業所マリーナ		047-304-8815	
●相談支援事業所ふあり		047-304-8860	tomo-hual2@patomo.jp
●日中一時支援事業所 マリーナテラス		047-304-8815	
●日中一時支援事業所 とも		047-304-8810	
●キッチンカフェほっぷ		047-304-8820	
●浦安市基幹相談支援センター(相談窓口)		047-304-8822	tomo-soudan3@patomo.jp
●浦安市障がい者等一時ケアセンター		047-350-8771	
●浦安市身体障がい者福祉センター		047-355-2734	
●訪問看護ステーションとも		03-5659-2100	
●パーソナル・アシスタンスとも 福祉用具貸与販売事業所		070-5561-8808	

ボランティア募集
◆療育に関わるボランティア イルカスイミングクラブ、生活塾、療育・手づくりリハビリ教室、造形教室、音楽療法、ムーブメント療育、卓球教室のサポート
◆フリマ、イベント、ケアルームのおもちゃ消毒などのお手伝い
◆PR活動:レイアウトやデザインが得意な人

FAX 番号 047-304-8821
ホームページ www.patomo.jp

編集人: 社会福祉法人 パーソナル・アシスタンス とも
〒279-0022 千葉県浦安市今川1-14-52
<編集後記>
今号が発行されるころには梅雨も明け、かき氷が美味しい季節になっているでしょうか。熱中症を予防しながら、元気に夏を過ごしたいですね!
[S]

パーソナル・アシスタンス
とも通信

いっしょに生きる
楽しく生きる

福祉を「職業」としている私たち Professional

職業としてその分野で生計を立てる者や、専門的な資格を持ってプロと呼ばれる

「パーソナル・アシスタンス とも」は市民活動から始まり、現在は社会福祉法人として運営しています。私自身も障がいをもつ子どもの母親として「障がいがあってもわが子がしあわせに生きて行ってほしい!」という思いから、志を共にする仲間たちと市民団体としての活動を始め、その延長線上で社会福祉法人となり現在に至っています。

市民活動の時代は障がいを持つ子どもや大人、その保護者として自分たちにできることは精一杯した上で、行政に当たり前の生活を支援してほしいと要望し「求める」という側でしたが、いざ自分たちが法人を設立し、望む「支援」を社会資源として自ら創り、担う側になることは、それまでとは別の立場になるということでした。

法人を創立し別の立場になり21年経った今も、市民活動の時代から求めていた、障がいを持つ子どもや大人、そしてその保護者の生活や人生を支える支援が必要であること。障がいがある人もない人も、どんな人も自分らしくともに生きることができるといえる社会にしたいという志は全く変わっていません。あくまでも福祉事業や制度、様々なサービスも全て手段であり、それらは

目的ではないからです。この数年、市民活動発足当時の想いを、出来るだけ多くの人により深く理解してもらい、継承してもらうようにするのが、私たち法人の大切な役割なのではないか、と思うことが増えました。

これはあくまで私見ですが、当事者運動は昔のように活発ではない気がします。保護者の活動も同様です。この20年で増えた福祉事業所で働く人達までもが、障がいのある人たちが生きにくさを感じたり、人として当たり前の権利を阻まれている事象に出会っても、通り一遍の自分の業務をこなして過ぎていくことでよとして「これ見過ごせないよね…」とか「何とかしよう!」など、おかしいと感じた事に自ら声を上げ、行動をおこす姿が少なくなっているような…、そんな危うさを感じています。

少なくとも福祉を職業にしている私たちは、手段に埋没してないかを常に自問し、仲間と互いに確認し合うことは最低限必要なことだと思います。私たちは支援を必要とする人達の人生に「プロフェッショナル」として寄り添う仕事を選んだのですから。

たくさんの事業所やサービスが増えた今だからこそ、少しでも住良い地域社会になるように、それぞれのプロフェッショナル達が切磋琢磨しながら手を取り合って進んでいけるようになりたい、強くそう思っています。

西田良枝





部署・所属 **パーソナルケアセンター**

入職 **2**年目 **Y.M**さん

Q1. 利用者さんの支援をする中で、心が動いた出来事を教えてください。

ケアに入りたてのころは、ちょっと緊張した面持ちで、笑顔を見せてくれることが少なかった利用者さんが、半年ぐら経ったときに、私の挨拶に笑顔を返してくれるようになりました。少しずつ信頼関係が築けているのかなと、すごく嬉しかったです。仕事で自分の力量の足りなさに落ち込むことがあっても、その笑顔を見ると、本当に幸せな気持ちになります。この笑顔を守るために精一杯頑張ろうと思います。

Q2. ともの同僚や上司からもらった印象に残っている言葉を教えてください。

入職したての頃は身体介護が全くできず落ち込んでいましたが先輩方が「絶対できるようになるから」と何回も言ってくださった言葉が励みになりました。まだ入職して1年しか経っていませんが新しい方が入ってきて「できません…」と言っていたら、先輩がかけてくださったこの言葉を掛けるよう意識しています。



Q3. 小さいときになりたかったものは何ですか？

パン屋さんです。母親がパン屋さんで働いており楽しそうに働いていたのに憧れていました。

部署・所属 **障害児通所支援事業所ふあり**

入職 **3**年目 **M.T**さん

Q1. 利用者さんの支援をする中で、心が動いた出来事を教えてください。

ふありを卒業する小学6年生のお子さんが私宛てに手紙を書いたことがありました。1年間支援してきたその子は、照れ屋で、自分からは話しかけてこないような子でしたので、感謝の言葉が綴られたその手紙を読んで、嬉しさと寂しさがこみ上げてきました。中学校に進学するその子の未来の幸せを願うと同時に、自分もこんな風に誰かに感謝の気持ちを伝えられる人になりたいと感じた出来事でした。

Q2. ともの同僚や上司からもらった印象に残っている言葉を教えてください。

「分からないことがあったら聞いて下さい。」という言葉です。なかなか分からないことがあると行き詰まって質問することも難しくなるのですが、声を掛けてもらえることで質問しやすくなり、何度も助けられました。

Q3. 小さいときになりたかったものは何ですか？

電車が新幹線の運転手です。幼い私は乗車する度に「この電車はどこに行くのだろう!」と目を輝かせていたそうです。



城西国際大学で西田職員が講演をしました!

5月27日に、ともの職員である西田江里さんが城西国際大学にお招きを受け、総合福祉学部と看護学部の学生さんに向けて講演会を行ってきました。西田さん自身の生い立ちや、一人暮らしのこと、その中で感じたことなどを率直にお伝えし、学生さんたちも色々なことを感じてくれたようです。



*聴講した学生の感想

- ・「障がいがあっても、その人が望む暮らしが送れるように」という言葉が印象的。
- ・指談と言う話し方を初めて知った。
- ・授業で扱う障がいのある方の話は暗く重い。西田さんの活動は、いろんな人に元気を与えることができると思う。
- ・「皆さんがやりたいことがあるように、私達も望んでいることがあります。」という言葉が印象的。自分が将来障がいのある人と関わる時は、その方の思いや考えを実現できる支援者になりたい。
- ・江里さんが周りの人に沢山感謝の言葉を言っているのがとても素敵。自分も家族に今日帰ったら伝えようと思う。
- ・私はやりたいことがあってもやる前からあきらめてしまうことが多いので、江里さんのようにやりたいことを実現しているのはすごい。
- ・障がいの有無関係なく、仕事をしてやりたいことを見つけ、遊んで、ひとりの人として生活を充実させるということは私達と同じだと思った。



*西田江里さんの感想

初めての事で、とても緊張しましたが、みんな一生懸命聞いてくれて嬉しかったです。これからはえりのこと伝えていきます。またいっぱいみんなと頑張ります。

「とも合同外出」に行きます

各事業所からのコメント

7月9日(土)、コロナ禍で長く実施できていなかった外出企画を、事業所の枠を超えて合同で実施することになりました!

参加事業所はパーソナルケアセンター、障害児通所支援事業所マリーナ、日中一時支援事業所ともの3つの事業所。この記事が皆様の手元に届くころには、みんなで思い出話に花が咲いていることと思います。

リフト付き大型バス「スマイル号」に乗って行ってきま〜す!



*パーソナルケアセンター

マンツーマンでスタッフがつくことがパーソナルケアセンターの強みです。参加者は久しぶりのグループ外出に「楽しみ!」と、大いに盛り上がっています。

*障害児通所支援事業所マリーナ

昨年度は遠足の1週間前に緊急事態が発令し、泣く泣く中止となりました。1年越しの遠足を、子どもたちはとても楽しみにしています!!

*日中一時支援事業所とも

2021年の3月に千葉市動物公園への旅行が企画されてから、何度も中止、再企画を繰り返していて、念願の実現という状態です。楽しみです!

みんなが待ち望んでいたグループ外出。ひとりひとりが笑顔をお土産に帰れるよう、感染予防には十分に配慮し、安全を最優先に実施します。